

3 各事務室報告

3.1 図書館総務事務室

図書館総務事務室は、事務分掌内記に基づき教育・研究計画書、自己点検・評価、4図書館運営の調整、図書や雑誌等の調達・受入・整理・登録・除籍、刊行物発行、図書館システム管理・運用、図書目録、統計調査、委員会等の会議運営、業務委託・電子資料等の契約、予算の要求・経理・決算、そのほかの庶務等を分掌する。理事会審議案件の上程、調達依頼等の学内手続き、学外関連団体との渉外業務等も担当した。特色あるコレクションとして西江雅之文庫、志田鉦太郎文庫、江波戸昭コレクションの整理や毛利家文庫のデータ整備も進捗した。予算の逼迫から学内公募による高額資料の購入はなかった。中野図書館基本コンセプト検討ワーキンググループが発足した。

2009年度から明治大学東京国際マンガミュージアム（仮称）設置計画に関する事務、その先行施設として米沢嘉博記念図書館と現代マンガ図書館の運営、マンガ図書館運営委員会の事務局を兼務している。2016年度から学長が構想するラテンアメリカ・プロジェクトの一環としてサンパウロ・ジャパンハウス等へのマンガ資料寄贈に係る事務が増加した。文化庁「メディア芸術連携促進事業連携共同事業」に応募し採択された。図書館全体として所要の要員・予算は補充されず、諸般の業務が人員・予算削減の中で遂行されたことを明記する。

(1) 除籍及び廃棄

図書館図書管理規程第14条に基づき、資料の除籍作業を毎年定例的に行っている。2017年度も、例年どおり上期・下期の2回に分け実施した。固定資料について、上期は2017年9月に2,620冊、下期は2018年2月に5,688冊をそれぞれ実施し、合計8,308冊を除籍した。簿外資料について、上期は2017年9月に5,180冊、下期は2018年2月に2,815冊それぞれ実施し、合計7,995冊を除籍した。除籍処理が済んだ資料は、各館に設置されている「あげます本コーナー」に提供し、学生にリサイクル本として活用している。

2010年度以前は、毎年固定資料1万冊を目途に除籍を行っていたが、近年では目標を下回る除籍数であり、最近の実績から除籍の遅れが指摘されている。現在、書庫の狭隘化が非常に大きな問題になっており、計画的かつ有効な除籍計画立案、実施を各部署に強く要請したい。

(2) 資産管理の適正化

図書館作成の図書原簿で資産計上する金額と、財務課で把握している図書費執行金額は本来一致するはずであるが、2006・2007年にかけて、図書原簿をもとに原簿データの遡及入力を行い、貸借対照表と図書館原簿データベースの金額の比較を行った結果、30億円以上の差異が生じていた。2007年の法定監査の際に、この金額の差異の問題を指摘されたが、いまだに完全な解決に至っていない。

このため、2014年度より図書館総務事務室のシステム、受入、経理、電子、マンガ図書館の各担当者及び図書館総務事務長をメンバーとして資産管理MTを編成した。2017年度も適宜会議を開催し、法定監査による指摘事項を中心に、金額の差異の原因解明及びその対処方法について検討した。また前年2016単年度での図書館と財務課との資産金額の一致を目指して調査を行い、原因不明な差額は0円となった。

(3) 目録・装備業務委託

目録・装備委託業者は2010年度に切り替わり8年目を迎えた。毎月定例会を開催し、実績報告、業務効率アップ、品質維持向上等について協議している。8年間の継続業務により、スキルが安定・向上し、新刊書だけでなく、各種コレクション整理の戦力ともなっている。しかし、委託業者は切り替わる可能性があり、業務を安定させていくためには職員のスキルも高くなければならない。業務委託への依存度が増す中、人材育成の課題が残る。

(4) 特色あるコレクションについて

●志山文庫

2014年度に公益財団法人損害保険事業総合研究所より、本学第5代総長志田鉦太郎氏旧蔵書2,937冊が

寄贈された。これは既に生田図書館保存書庫に収蔵されている「志田文庫」約 6,300 冊を補完するものである。2017 年度は和書 753 冊の整理・装備作業を行い、全ての整理を終了した。

●西江雅之文庫

2015 年度に文化人類学者西江雅之氏旧蔵書（約 7,500 冊）が寄贈され「西江雅之文庫」（和泉図書館収蔵）として整理を開始した。2017 年度は洋書 794 冊の整理・装備作業を行った。2018 年度も引き続き整理予定である。

●トルコ文庫

佐原徹哉政治経済学部教授より図書の寄贈があり、そのうちトルコ語図書 126 冊を「トルコ文庫」として整理した。

●千野栄一氏旧蔵書

岩井憲幸名誉教授（元文学部教授）より、言語学者千野栄一氏が蒐集した古代教会スラヴ語に関する文献コレクションの寄贈があり、283 冊を整理した。中央図書館書庫に所蔵されている。

(5) 特定課題推進費購入資料への対応

経常予算以外で購入された以下の資料の日録・装備を行った。

○江波戸昭コレクション

2007 年度に寄贈された故江波戸昭名誉教授（元商学部教授）旧蔵書の中から、民族音楽に関連する図書、音源、映像等のコレクション（約 5,000 冊）を「江波戸昭コレクション」（和泉図書館収蔵）として受け入れ、整理を開始した。2017 年度は、和書 1,400 冊・洋書 450 冊の整理・装備作業を行った。2018 年度も引き続き整理予定である。

(6) 図書受入・検収業務

電子ブックの積極的購入推進の影響もあり、冊子の受入数は減少傾向にある。会計監査・内部監査で指摘があった業務フローの改善は、現行可能な範囲で全て適用し、順調に機能している。

2016 年度末から発生した、受入後未整理資料の紛失（盗難の可能性が高い）については、本年度前期までは引き続いた（但しあくまでも判明した時期であり、発生したのは前年度とも考えられる）が、その後各種セキュリティ対策の実施もあり、後期以降は発生していない。

(7) 雑誌整理・受入業務

冊子体から電子媒体への移行や、インターネット公開されているものの受入中止などに伴い、雑誌受入数は減少傾向にある。

NII 登録所蔵一括更新（本年度は洋雑誌）ほかの業務委託によるデータ整備も順調に実施している。

(8) システム関連業務

2018 年 8 月に実施する iLiswave-J V3 への移行に伴う作業を中心に行った。これまで、単年度契約により更新されてきた iLiswave-J のソフトウェア利用契約を見直し、複数年契約（4 年間）を前提とするように変更した。これに伴い、プロジェクトに関わる総費用が理事会決裁案件となるため、iLiswave-J としては初めて理事会での審議を経てリプレイスを実施することとなった。

図書館システムの人員は、2 名体制のまま維持されており依然として人員不足と、システム業務を維持していくことに対して課題が残ったままである。

システムの他部署協力については、ユビキタス e-learning（ユビキタス教育推進事務室）への認証システム提供が終了した。また、IAAL のサービス提供終了に伴い、オンラインナレッジサービスが終了した。

3.2 中央図書館事務室

中央図書館は、創立 120 周年記念事業の一環として建設され、2001 年 3 月 16 日に開館した。街と人の記憶に融合するよう設計され、美しい内観と充実した設備を持ち、2002 年日本図書館協会建築賞を受賞した。16 年経った今でもシンプルとモダンをコンセプトで装備された内装を保ち、アクセスしやすい都市型図書館として公開し、社会的責任を果たしている。

業務体制は、専任職員 8 名、短期嘱託 2 名、派遣職員 1 名、業務委託スタッフ 25 名、計 36 名及び学生アルバイト若干名で運営され、センター館の機能を担っている。中央図書館は、他の図書館事務室と連携して蔵書体系や図書館リテラシー教育の拡充を推進している。

2017 年度は、2018 年 1 月 10 日に、開館以来の延べ入館者が 1,400 万人を達成し、図書館長から、1,400 万人目の学生及び前後に来館した学生も含めた 3 人に認定証と記念品を贈った。

(1) 開館日数・入館者数・各種ガイダンス等

2017 年度の開館日数は、336 日（2016 年度 336 日）開館した。リバティタワーが入構制限となる入試期間中（2/4～2/17）は入館口を変更して 8 時半から 19 時まで開館した。入館者数は 554,752 人（2016 年度 586,454 人）で、一日約 1,700 人の入館者となった。貸出冊数は、161,863 冊（2016 年度 163,093 冊）だった。学生数が最も多く、地の利が良い場所で、社会に広く公開しているため、明治大学の 4 図書館の中で最も開館時間が長くなっている。

ガイダンスは前年度とほぼ同様で実施した。大学院新入生オリエンテーション、文学部 3 年次ガイダンス、留学生オリエンテーション、新任教員ガイダンス、専門職大学院秋季入学者（留学生）ガイダンス、共同プログラム短期研修生ガイダンス、図書館ゼミツアー（総参加者数 725 人（2016 年度 719 人））、各種の情報検索講習会、ガバナンス研究科・グローバルビジネス研究科図書館ツアー、司書講習図書館ツアー、オープンキャンパス図書館ツアー等を実施し、「書評の書き方講座」、「大学院生による論文相談会」も開催した。図書館実習生（他大学）を受託指導し、第 4 期図書館サポーターを受入れ活動を支援した。

(2) 施設・設備の保守・管理

2017 年度は、大きなリプレイス等は無かった。防犯の観点から、非常警報ボタンと警報表示盤の連動表示の工事を実施し、インフォメーションカウンターから地下 1 階事務室及び地下 2 階事務室への緊急事態発生時の通報が可能となった。

施設面では、開館 16 年となり、老朽化による機器の修繕が各所で発生し、部品交換及び機器の入替等を行った。マイクロ搬送機部品交換、ブックディテクションシステム（BDS）、防災管理点検作業、プレゼン設備保守点検等があった。マイクロ搬送機は度重なる不具合が発生し、2018 年度に部分改修が必須の状態である。

(3) 中央図書館ギャラリー展示

中央図書館事務室 5 名、図書館総務事務室 2 名のワーキンググループで展示活動を行なった。教員や学内外関係者と連携し、メンバーが企画・渉外、解説・印刷原稿作成、列品、広報を担当し、第 67 回から第 74 回までの 8 回の展示会を開催した。その内 3 回は他部署からの要望に応え、共同で開催した。

様々な節日にあたり開催した記念特別展示「阿久悠日記」では、比類なき日記を一部公開し、併せてトークイベントを開催し、多くのファンが訪れ盛会であった。

学生に向けて、大学の歴史が学べる公開や、付属機関をアピールするには、当館の存在は大きく、学会等でも学外研究者への広報となったことは大きかった。

展示タイトルは、p.20「4 主要行事・イベント 中央図書館ギャラリー」参照。

(4) 各種イベント等の開催

利用マナー教育と読書推進活動のため、図書館オリジナルバッグのデザインコンテストを行ない、最多得票のデザインでバッグを作成し学生に提供した。

第8回図書館書評コンテストは、図書館活用奨励と優れた書評を顕彰し読書活動を推進することを目的に開催し、2017年度は50編の応募作品があり、12作品が受賞した。継続して応募している学生が受賞するなど、回を経て実力をつけていることが感じられた。2018年1月30日に和泉図書館ホールで表彰式を行なった。p.5「2.14 書評コンテスト選考部会」参照。

(5) ローライブラリーと法科大学院生・法学研究科院生の利用

ローライブラリーは、法学部資料センターを改組し、法科大学院生専用図書室として2004年4月5日に研究棟地下1階に設置され、蔵書数は約15,000冊を持ち、法律関係の図書、雑誌、判例集を所蔵している。2017年度は、中央図書館の開館日数より5日間多い341日開館した。なお、法学研究科院生も学生証の提示で閲覧の利用ができる。

(6) 国際交流への貢献

次の学部等留学プログラムの図書館利用等を受け入れた。大学の国際交流の推進に伴い、増加している。

ノースイースタン大学共同プログラム、南カリフォルニア大学共同プログラム、マウントロヨラ大学受入プログラム、アジア太平洋諸大学共同プログラム、西シドニー大学共同プログラム、情報コミュニケーション学部短期学生交流プログラム、Meiji University Law in Japan Program1・2・アウグスブルグ大学受入プログラム、日本語短期研修プログラム（夏期・冬期）、クールジャパンサマープログラム、グリフィス大学短期受入プログラム等。

(7) 防災関係の取組み

2017年11月6日に総務課で実施したシェイクアウト訓練にあわせ、中央図書館独自のシェイクアウト訓練を実施した。11月14日には防火・防災フェスタに参加し、様々な訓練を体験した。2018年1月から3月にかけて、東日本大震災時の東北地方の図書館被災状況写真と地震発生時の対処法ポスターを、書庫連絡通路及びギャラリー前で展示した。新たに、2017年度から、毎月1回の防災用品（懐中電灯、メガホン等）点検を始め、職員及び嘱託職員により輪番制で実施した。懐中電灯の不備が発見され更新するなど効果があった。

(8) 中央図書館学生サポーター

中央図書館の利用促進や学生の読書促進を目指すことを目的に、2014年度から活動を開始し、4年目を迎えた。2017年度は公募制を止め、学生の自主的な活動を中央図書館が支援する形とした。学部4年生2名と大学院生2名が参加した。就職活動や海外での国際協力活動参加等により思うような活動ができない中、他機関との連携（学内及び学外）による企画展示など、新しい試みにチャレンジした。これは「学生協働ワークショップ in 東京」に参加した際、他大学より好評価をいただいた。P.18「4 主要行事・イベント 中央図書館学生サポーター」参照。

3.3 和泉図書館事務室

和泉図書館は開館6年目を迎えた。4月下旬から5月中旬にかけて、開館5周年記念イベントを開催し、5年間の歩みを年表形式で掲示し、学生によるペーパーツITTERを募った。

(1) 業務体制と人事政策

業務体制は、専任職員6名、嘱託職員1名、業務委託スタッフ20名で運営した。嘱託職員については、2017年5月末に契約終了した者から、6月初旬に新規契約となった者が業務を引き継いだ。

(2) 図書館リテラシー教育・ガイダンスの改善

図書館リテラシー教育をより多くの学生が受講できる機会を設けるため、2015年度に図書館リテラシー講

座の Web 化を行った。2016 年度は、この Web コンテンツを図書館ガイダンスにおいて試行的に取り入れた。その効果が見られたことから、2017 年度の図書館ガイダンスでは全面的にこれを取り入れた。運営面においても、効率よく実施することができた。

現在 4 種類のコンテンツで運用しているが、ガイダンスの内容に幅を持たせるため、コンテンツの種類を増やすための予算要求を試みたが、予算確保に至らなかった。引き続き予算要求していく。

レポート作成やプレゼン資料作成のための準備として図書館を活用できるよう「短期間でわかる！レポート準備講座」というテーマで、DVD 上映を開催した。これまで春学期・秋学期の両方に開催していたが、学生の動向から 2017 年度は、春学期（6 月 26 日（月）～7 月 7 日（金））のみ開催した。

「大学院生によるレポートの書き方ナビスターション」は、和泉教務事務室と連携し、春学期 6 月 6 日（火）～7 月 20 日（木）、秋学期 10 月 11 日（水）～1 月 23 日（火）にサーチアシストで実施した。

新入生に対するガイダンスでは、各学部新入生ガイダンスにおいて、図書館利用案内（約 30 分）を実施した。このほか、4 月 6 日（木）～14 日（金）にスタンプラリーを実施し、クイズに答えながら新入生が楽しく図書館を知るきっかけとしたり、フリーツアーを開催し、図書館利用案内を行い、200 名が参加した。

(3) 特設コーナーの改善と読書推進

特設コーナーは、入館ゲートからエレベーターへの通過動線上にあり、多くの学生が目にする場所にある。展示棚を備えた書架に本を効果的に展示し、学生の読書関心を促すコーナーとして機能している。

2017 年度の本棚は、専任職員企画による学生が身に付けるスキルに関するもの、業務委託職員企画による自由テーマ、学生ボランティア団体 MBA 企画によるもので構成した。それぞれ貸出も頻繁にされていたが、特にスキルをテーマにした図書は非常に多く貸し出された。

このほかに「教員お薦め本」コーナーの図書は、貸出も多く、学生に人気のコーナーとなっている。より多くの図書を配架するため、教員の協力が必須であり、引き続き教員への働きかけを行っている。

実務・実用書コーナーでは、英語リーダー、就職関係図書を設置している。

(4) イベント・ギャラリー展示

イベント、ギャラリー展示については、別途全館まとめて記載しているので、そちらを参照されたい。2016 年度に参加数が振るわなかった英語関係のイベント参加は参加数を盛り返した。2017 年度は、MBA による企画イベントが開催されたほか、MBA の活動支援及び職員とのコミュニケーションを促進する狙いから協働参加の講習会も開催した。

(5) 館内サインの更新

館内の入れ替え可能な手作りサインを 2014 年度から改善検討し、2015 年度に書架側板のサインを一新した。2017 年度は、書架側板サインにリテラシー教育をテーマにした内容を追加した。スタンド型サインの更新は、2016 年度から継続実施中である。

(6) 杉並区図書館ネットワーク・世田谷区立図書館との連携

杉並区民・区内協定校のライブラリーカード発行枚数は 379 枚、世田谷区民のライブラリーカード発行枚数は 167 枚となり、いずれも前年度より増加している。

地域住民の利用について、未返却のまま連絡が取れなくなるケースや、汚損の弁済に応じない利用者が年々増えてきている。2017 年度は、杉並区立図書館と代理弁済等の対策を協議し、一部弁済が実行された。

杉並区図書館ネットワーク講演会

「源氏物語への扉 ―その光と闇―」

【日 時】 2017 年 10 月 14 日（土） 14:00～15:30

【場 所】 杉並区立中央図書館 視聴覚ホール

【講 師】 高橋 汐子（東京立正短期大学講師）

社会連携事業の一環として、世田谷区の中学校から職場体験学習を受け入れた。

3.4 生田図書館事務室

生田図書館は、緑豊かな多摩丘陵高台にある生田キャンパスの東側中央に位置する。同キャンパスでは、理工学部・農学部の授業・実験等の教育・研究展開により、学生が長時間キャンパスに滞在しており、その教育・研究支援並びに終日滞在型キャンパスライフスタイルの快適性・利便性支援の一翼を担うのが生田図書館である。よって、明治大学図書館4館の中で最も開館日数が多くなっている。生田キャンパスにおける図書館の来歴は次のとおりである。1951年3月、旧陸軍登戸研究所本部の木造平屋建ての一室を転用した「農学部図書室」（翌年、図書館「生田分室」に改称）に始まり、1965年3月、工学部の聖橋校舎から生田への移転後、学生・教職員等の規模拡大を受け、1970年4月に「明治大学図書館生田分館」として構内の現在地に独立した1棟の建物で開館した。さらに1988年4月の増改築竣工を機に「明治大学生田図書館」と名称変更し、現在の建物外観となる。その後、阪神・淡路大震災後の数年に亘り実施された全キャンパス建物の耐震検査年度計画に基づき、1999年に構造補強（耐震壁）工事を実施した。また、1995年には図書館南側隣接面（農学部創立50周年記念庭園）地下に明治大学の現4図書館共通の図書・資料の保存庫である「生田保存書庫」（地下2層）が建設されている。

なお、2017年度実施の生田図書館諸活動報告は以下の（1）～（7）を、また、蔵書数、開館・貸出状況、延床面積、座席数、施設規模等についてはp.25「7 各種データ表」、その他資料をご参照願いたい。

（1）施設工事・環境整備

1階第4開架閲覧室に、空調改善対応として移動型除湿機（1機）を設置した。また、図書館全館の電動密集書架スポット点検の一環として、生田図書館は地下2階保存書庫の書架点検を実施した。その他、大学法人部署主導により、2階等館内一部エリアについて、水銀灯を含む従来の照明器具をLED照明に更新する省エネ照明器具更新工事が実施された。

（2）展示ギャラリーの運用

2017年度は10件（学部・研究科等企画7件、図書館企画2件、他1件）の企画展示を開催した。内容は学部生・大学院生の成果作品発表、教員・研究室の研究成果発表、博物館企画展示等。詳細はp.21「4 主要行事・イベント 生田図書館ギャラリー「Gallery ZERO」」を参照。

（3）ガイダンス及び図書館リテラシー教育の充実

4月1日から4月8日まで行われた理工学部、農学部の新入生指導週間行事日程の中で、理工学部2回、農学部1回の新入生図書館利用ガイダンスを実施し、4月3日には新任教員図書館利用ガイダンスを実施した。新入生歓迎行事の一環として、4月1日～22日まで館内で行ったスタンプラリーには計47名が参加した。

次に年間を通じてのリテラシー教育活動として、22回のゼミガイダンス（含・グループガイダンス、出前講義）に計261名が参加した。

なお、2017年度も農学部からの依頼により、食料環境政策学科の初年次教育科目「基礎ゼミ」（受講者163名）、及び農学科の「農学基礎実験」（受講者120名）にそれぞれ図書館職員4名を派遣し、「図書館利用法と新聞記事検索演習」、「図書館を活用したレジュメ・レポート作成と文献検索演習」の2コマ計8回の出張講義を行った。

また、外部講師を招いて「SciFinder」「Web of Science」の講習会を行い、それぞれ14名、48名の参加があった。

(4) 学習用図書選書

生田図書館運営の柱である「読書支援」「利用者目線」を反映させた選書を行った。

前年並みの予算を受け、2017 年度も引き続き継続図書の見直しを行い、他館との重複購入を避けるなどの節約選書に努めた。

一方で生田図書館運営の柱である「読書支援」「利用者目線」については、日々の話題や新聞書評欄、書店・出版社のホームページ等で情報を集め、話題作は購入した。

(5) 特集コーナーの企画

期間毎に設定したテーマについて関連資料を新着図書コーナー隣の書架に配架し、利用者に読書に親しんでもらう機会とした。2017 年度は以下の 8 企画を実施した。

1 おいしい本あります	4/1 (土) ～ 5/11 (木)
2 心も身体も健康に♡ ～ご機嫌に生きよう～	5/12 (金) ～ 6/15 (木)
3 世の中の常識・仕組み	6/16 (金) ～ 7/19 (水)
4 夏読！おすすめ本	7/20 (木) ～ 9/30 (土)
5 映画なんでも大集合！	10/2 (月) ～ 11/9 (木)
6 どうする？就活	11/10 (金) ～ 12/14 (木)
7 カラフルな本	12/15 (金) ～ 1/29 (月)
8 スタッフおすすめ本 Winter	1/30 (火) ～ 3/31 (金)

(6) 読書のススメ（話題の本）コーナーの企画

新聞見出しに頻出する記事や web での話題から生田図書館の蔵書をピックアップし、学生の読書へのきっかけを提供した。2017 年度は以下の 16 企画を実施した。

1 発達障害とは	4.3 ～
2 図書館をもっと身近に	4.21 ～
3 映画祭	5.19 ～
4 サイバー攻撃から身を守る	6.9 ～
5 南方熊楠 生誕 150 年	6.30 ～
6 将棋	7.21 ～
7 追悼 日野原重明先生	8.25 ～
8 専守防衛	9.22 ～
9 体内時計で健康に	10.13 ～
10 ハラスメント	11.2 ～
11 チバニアンって知ってる？	11.25 ～
12 西郷隆盛	12.15 ～
13 皆既日食 天体観測・宇宙の不思議	1.19 ～
14 広辞苑と日本語	2.9 ～
15 考えてみよう 私たちの働き方	3.7 ～
16 小田急線と沿線	3.29 ～

(7) 川崎市図書館との相互協力

2014 年 1 月に川崎市立多摩図書館長の呼びかけで始まった多摩区 3 大学図書館(明治, 専修, 日本女子大学)・川崎市立多摩図書館連携状況連絡会議は、2017 年度は以下の 2 回が開催され、各図書館の近況並びに地域連携の現状が披露された。

7 月 11 日 (火) 会場：川崎市立多摩図書館

3月16日（金） 会場：専修大学生田図書館

2017年度も多摩区広報などへのギャラリー ZERO 展示のお知らせ掲載や多摩図書館から川崎市民への積極的な広報もあり、生田図書館の地域連携は成果を伴いながら定着してきている。図書館を利用する川崎市民が、ギャラリー見学やコスパへ参加することも珍しくない。2013年度からの統計推移は以下のとおりである。

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
LC作成数	70名	47名	67名	49名	45名
入館者数	3,668名	4,748名	5,240名	5,032名	3,375名
貸出冊数	2,689冊	2,506冊	2,534冊	2,147冊	2,193冊

3.5 中野図書館報告

2017年度、中野図書館は開館から5年目を迎えた。中野キャンパスには、先端数理科学研究科（以下、先端研）に専攻が2つ増設され、理工学研究科の再編によって、建築・都市学専攻国際建築都市デザイン系と総合芸術系がおかれた。新領域創造専攻、建築学専攻国際プロフェSSIONALコースは終了に近づいている。学生数は、開設年度に人数が多かった総合数理学部（以下、総合数理）に減少がみられたが、新専攻などの影響もあり、2016年度とほとんど変わらない約3,100名であった。入館者数は2016年度に比べて全館的に減っており、中野図書館も11.8%減であった。それでも昼過ぎから夕方にかけて、閲覧席には学生の姿が日立ち、一人で静かに学習できる場所として重要な役割を果たしている。

入館に関する変更としては、2016年10月のリパティアカデミー会員入館停止に続き、山手線コンソーシアム及び東京医科歯科大学利用者の入館も2017年度から停止になった。これは限られた規模の中野図書館施設の利用を少しでも本学学生優先とすることが目的である。

(1) 開館日数・入館者数・貸出冊数など

2017年度の開館日数は340日（2016年度は341日）であった。1日減ったのは学内ネットワーク工事の影響などが考えられる。中野キャンパスが全学部統一入試の会場となり2月5日が閉館に変更となったが（4日は日曜日で元々閉館）、かわりに他の閉館日を開館に変更した。中野キャンパスでは2017年度、土曜日の休日授業を実施しないことになり、当該日の開館時間を変更したということもあった。

延べ入館者数は125,271人（2016年度142,018人）であった。国際日本学部（以下、国日）、総合数理とも減少しているが、総合数理は学生数減（1,243名から1,109名）の割合（10.8%減）より多い約22%減であった。国日は学生数が50名ほど増加したが、入館者数は約6%減であった。100分授業導入もあって、時間帯ごとの入館者数の比較などもしてみたが、13時から19時の間の減少が大きい。ただ、昼休みや3時限から5時限後の休み時間の入館者合計だけを比較してみると2017年度の方が増えた。19時以降も減ってはいるが、元々利用は多いわけではなく減少は少なかった。

貸出冊数は39,207冊（2016年度は41,723冊）、他キャンパスからの配送件数は11,868件（2016年度は13,867件、生田保存書庫分を除く）であった。

(2) 蔵書について

2017年3月31日現在の中野図書館蔵書数は49,443冊（簿外図書も含む）である（2016年度は47,861冊）。生田保存書庫への約1,500冊の移転も実施した。

2017年度中野図書館学習用図書予算で購入した図書は2,481冊（2016年度は3,737冊）で、33.6%減であるが、これは予算削減によるものである。3割の違いは非常に大きいことを実感した。設置経費図書購入は、国際日本学研究科105冊であった。先端研の専攻増設に伴う図書購入は151冊で、電子ブックの購入もあった。

生田保存書庫への移転は、2013年度登録の図書を中心に、貸出回数が1回以下のものを抽出した。除籍冊数は、1,116冊であった（簿外を含む）。

(3) その他

ガイダンスやイベントの報告は別章にあるとおりである。

読書・貸出推進としては引き続き、オススメ本棚にスタッフがテーマを決めて関連図書の展示を通年行った(計 17 回)。『図書たより』を 22 号から 28 号まで発行した。

(4) おわりに

各種委員会の章に報告があるが、2017 年度は、中野キャンパス第 2 期整備計画に向けて、図書館でも「中野図書館基本コンセプト検討 WG」が設置され、中野キャンパス運営委員会建物検討専門部会での検討結果ともすり合わせながら、検討を重ねた。今後さらなる計画進捗を期待したい。